

「オホーツク流氷の日inあばしり」を開催しました。

オホーツク地域では、地球温暖化の影響などを受けて減少傾向にある流氷の保護をキーワードに、環境保全運動「オホーツク流氷トラスト運動」を展開しており、その一環として、流氷を通じて地域の環境や暮らしなどを見つめ直す日として制定した「オホーツク流氷の日」（2月第3日曜日）及びその前日に、「オホーツク流氷の日inあばしり」を開催しました。

日時

平成20年2月16日（土）から2月17日（日）まで
（今年の2月第3日曜日にあたる2月17日及びその前日）

場所

エコセンター2000（網走市）

来場者

約500名（2月16日：200名、2月17日：300名）

主催

「オホーツク流氷の日inあばしり」実行委員会
網走観光協会、網走商工会議所、網走青年会議所、網走中央商店街振興組合、
オホーツク圏観光連盟、網走市、網走開発建設部、北海道網走支庁（事務局）

【2月16日（土）】

オホーツク・キャンドル・スローナイト

市内の小中学校・高等学校の児童・生徒のみなさんを中心に作っていただいたアイスキャンドル約3,500個を、会場中庭において点灯しました。その中心に、美幌町在住のキャンドル作家・福井あゆみさん作のメインキャンドルを設置。網走小学校2年生の石田桃太郎さんと森七海ちゃんが、平塚網走支庁長と一緒に点灯式を行いました。



中庭に面したアトリウムでは照明を落として、石原可奈子さんのコンサートと、神田山陽さんの講演・講談を開催。石原可奈子さんは、太陽光発電により蓄電した電気を使って電子ピアノを演奏。エコロジーを意識したトークや、自然をイメージしたオリジナル曲を披露してくれました。

オホーツク出身の神田山陽さんは冒頭で、舞台を客席の中心へ移動することと、電気を全て消してアイスキャンドルを会場内で灯すことを提案。新作講談や、卯原内に住んでいた子供の頃のお話、水や流氷への思いなど、幅広いお話を聞かせてくださいました。

また、会場内では、エコ容器を使って北見名産のオニオンスープ（（株）グリーンズ北見提供）・しじみ汁（西網走漁協提供）のサービスや、リサイクルキャンドルのプレゼント（ありのままの会提供）も行われました。



【2月17日(日)】

流氷の日制定記念セレモニー

～菊地慶一さんの流氷のお話・映画「不都合な真実」上映会～

この日は制定後初めての「オホーツク流氷の日」。制定記念として、網走在住の流氷研究家・菊地慶一さんから、流氷についてご講話いただきました。昔の流氷の写真を、スクリーンに映しながら、流氷や環境の変遷について説明され、「オホーツク海の変化は小さいかもしれないが、地域に住む者はそれを敏感に感じ取り、環境に対する意識を変えていかなければ地球が生き延びる道はない」と提言されました。



続いて、環境問題を取り上げた映画「不都合な真実」上映。ご来場のみなさんからは「流氷の話聞いた後だったので、“子どもたちが将来救わなければならない地球を、親子で今、救いましょう”などのメッセージを身近なものとして受け止めた」といった感想が寄せられました。

【2月16日(土)～17日(日)】

流氷と温暖化に関するパネル展

アトリウムに隣接する展示室では、流氷と温暖化、その他環境に関するパネル展を開催。

菊地慶一さんの流氷の写真や、地球温暖化問題に関するわかりやすいパネルの他、世界自然遺産・知床の動植物をとらえた写真、レッドデータブックに掲載されている絶滅危惧種のイラストなどを展示しました。(17日には福井あゆみさん作のキャンドルも展示しました。)



17日は、同じ会場内で「オホーツク観光大使コンサート」や「市民意見交換会 森林の保全・利用とその財源を考える」、環境に優しいペレットストーブの展示なども同時開催。

また、「オホーツク流氷の日 in あばしり」の他にも、網走市内の商店街や店舗などでキャンドルナイトや、オホーツクの各地で協賛イベントが開催されました。



かまくら雪まつり 会場風景
(佐呂間町)

はげや珈琲の店内
(網走市)



オホーツク観光大使コンサート
(同時開催)